

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971000450		
法人名	特定非営利活動法人 あすなる友の会		
事業所名	グループホーム あすなる		
所在地	栃木県大田原市佐久山2274番地5 電話:0287-28-3676		
自己評価作成日	平成29年 1月 6日	評価結果市町村受理日	平成29年 3月30日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaijokensaku.jp/09/
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成29年 3月22日	評価確定(合意)日	平成29年 3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、春夏秋冬景観の良い御殿山が一望でき、自然に恵まれた場所にあります。近隣には、高齢者ほほえみセンター、公民館、小学校また敷地内には市で運営している子育てサロンと当法人で運営する学童保育館があります。地域の高齢者と合同で行事を行ったり、幼児や児童と季節折々の行事を催したりして地域との交流を深めています。当法人で運営する福祉有償運送サービスにおいては、ホーム利用者やご家族、地域の方々にご好評いただいております。『地域と共に歩む』という理事長の理念を基盤として、この佐久山の地に根ざした運営をすべく日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年開設の事業所で、運営母体はNPO法人あすなる友の会でありグループホーム、デイサービス、福祉有償運送、学童保育館を運営している。運営推進会議には利用者、家族、地域、行政など多くの関係者出席のもとに事業所の状況や行事を報告し、各メンバーからの提案・相談や情報交換が行われている。行事委員会の努力もあって、毎月実施しているバイキングや利用者全員の誕生会実施など一人ひとりの希望を聞き思いやりを込めた方法で対応している。協力医の2週間に一度の訪問診療や利用者毎の「緊急医療情報」を整備して突発時への対応に備えており、また今年度初めての看取りを行うなど家族の安心安全を得ている。職員からの意見によく耳を傾けるなど利用者や家族の信頼を得て地域の介護事業所期待されている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアの実践現場で活かせる8つの理念唱和は継続している。新年を迎え、地域との繋がりを意識した法人理念と現場での認知症ケアを包括的に見直しをかけている。	開設時に、施設長を中心に経営理念として8つのケアを理念とした。朝礼時に唱和を行ない笑顔でするケアなど各職員が大切に思っていることをケアの中心に置き、共有と実践を図っている。項目の集約による統一ケアを継続した課題としている。	継続課題である、項目の集約による統一ケアについて職員の総意を得る取り組みを工夫して実現することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者ほほえみセンターご利用の皆様との交流会を継続している。小学校運動会や餅つき大会に招待を受けたり、ホームでのふれあい祭りに招待したり継続的な繋がりができている。自治会の行事にも参加させていただいている。	事業所行事に地域の住民を招いたり、事業所前の小学校の生徒の訪問などもある。利用者も一緒に神社の締め縄作りや清掃、地域の給食サービスの手伝いなど自治会行事への参加や、小学校行事に参加している。更に、認知症サポーター養成講座(参加者120名)などの地域貢献も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、近隣小学校へ認知症サポーター養成講座の講師として講話させていただいている。また、地域住民の方および医療・福祉施設等専門職との交流と連携を図るべく講演会を開催した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回定期的に開催し、法人内各事業の報告をしている。意見交換や情報交換の際には、ホーム行事等に対する温かい助言や協力をいただいている。	利用者、家族、自治会長、民生委員などがメンバーで事業所の状況や行事を報告し、各メンバーからの提案・相談や情報交換が行われている。事業所のゴミ出しについて自治会の相談し助言を受けたり、地域の移動困難者急増に対する対策について佐久山地区の社協も含めた動きに展開するなど地域の課題を話し合う会議にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は日頃の関わりに加え、去年は法改正による「日常生活支援総合事業」における協議体構成員を委嘱され、移送関連のプレゼンをしたり、定期的な会議にて事業所として貢献できることなど情報交換を密に行った。また、県北3市町行政向けに地域支援事業についての勉強会を開催した。	市職員、地域包括支援センターが運営推進会議に参加し、事業所の実情を報告している。更に、「日常生活支援総合事業」などの行政の各種会議の構成員となって協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者より日頃から指導があり、管理者や職員はその理解に努めている。日頃からご家族と職員間で声を掛け合い、利用者お一人お一人に細心の目配りができるよう、また利用者の行動を不用意に抑制することがないよう心がけている。	車椅子からの転倒や、歩行中に突然倒れたり、柱に頭をぶっつけたりする事故が発生しており、家族の了解も得て一時的に安全ベルトや、ヘッドカバーの使用をしている。職員の連携などを強めながら使用の中止を検討している。身体拘束マニュアルについて毎年勉強会を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連図書の閲覧をし、虐待に関する知識を深めるべく日頃から職員同士、ご家族とのコミュニケーションが密にとれるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者やそのご家族との関わりの中から、また職員会議等の機会に学べるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて、ご理解いただけるまで説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会との関わりの中で、その記かーを設けている。	運営推進会議や家族会などで意見を述べる機会を設けており、利用者・家族から以下の提案がえられている。ふれあい祭りでバザーの提案があり実施したり、避難訓練としてで地域の人に利用者の避難を手伝ってもらうなどの提案出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催している職員会議の他、週2回カンファレンスを開催している。また、必要時は随時話し合う機会を設け、反映できるようにしている。	職員会議などで意見を聴くように努めている。行事委員会では実施している既行事への内容追加提案が得られている。個人的にも職員から子供の行事対応の相談や勤務形態の相談が多く、できるだけ対応につとめている。また、資格取得としての研修参加希望も多く補助金の対応もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、理事会での事業・運営報告を通じてその状況や職員の勤務状況を把握している。また、こまめに来訪し現状把握に努めたり、職員とのコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の社会福祉協議会での専門研修計画書に基づき、必要な職員が必要な研修を受講できるようにしている。また、グループホーム協会や市、関係機関で開催される研修にも必要に応じ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡協議会での施設部会や地域密着型サービス部会での取り組みをする他、法人で開催する講演会等で招いた講師や同業種の方との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み受付時にご家族や関わっている事業所の方より、ご本人の情報を収集している。また、見学も兼ねてご来訪いただき面談をしたり、必要に応じてご自宅などの訪問をしたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、十分に話し合い必要な情報の収集に努め、良い関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・申し込みの受付時には、それ以前に関わってきた事業所などから情報収集をし、十分に話し合い聞き取りをした上で、必要があれば他事業所へのご紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者お一人お一人に担当職員を配置し、その職員を中心に日々の状態把握に努め、その場その時に応じた柔軟な対応ができ、且つ共に添う生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力をいただき開催する「あすなろふれあい祭り」は、恒例行事の1つで家族のふれあいが持てている。また、面会の折には、家族の時間が充実できるよう居室のセッティングをしたり配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族、また自治会長さんや民生委員の方よりいただく情報を基に馴染みの人や場所の把握に努めている。	事業所のふれあい祭りには地域の人の訪問も多く、馴染みの人との貴重な出会いの場になっている。馴染みの場所などに、ほぼ月2回のペースで外出各行事を行なっている。初詣を始めとし、ひな祭り、お花見、鯉のぼり、紅葉狩りなど多く、今回から芝居見物や同所での温泉、パチンコなど、新規行事にもチャレンジしようとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに長椅子を置き、居間スペースには掘りごたつが設置してあり、共用空間のレイアウトの工夫している。利用者の個々の性格や、利用者間の関係性の把握に努め皆で関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、入院または入居先との関係者と連絡を取り合いながら必要な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリング等の情報を基に、カンファレンスをしたりして職員間で共有を図り、希望や意向に沿った生活ができるよう努めている。	日常の会話や接する中で、やりたい事や食べたいものなど、本人の意向を確認するようしており、確認方法として、単語で答えられる聞き方や絵を使ったりして確認している。また意思疎通の図れない人には家族に聞いたりして意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで利用してきたサービス事業所からの情報を基に、ご本人やご家族から十分に聞き取りその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、お一人お一人の心身の状態を観察し、定期的にモニタリングやアセスメントをしながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在、センター方式を使ってアセスメントを行い、定期的にご本人のためのケアについて話し合っている。今年度より、県のケアマネ協や市の推奨する「宮城方式」へシフトチェンジを図る予定である。	介護計画は半年ごとの見直しを基本に、週2回のカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリングを行っている。大田原市から実施指導に来て、現センター方式から「宮城方式アセスメントツール」へ、てシフトしつつあるので「宮城方式アセスメントツール」習得のための勉強会が必須となった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、温度番、アセスメントシートの他、申し送りノートを使って職員間に情報が浸透するよう努めている。内服薬の変更や頓服薬の処方、その他個別的な対応を職員間で把握するため、個別申し送りファイルも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理事長が医師のため、医療的フォローの要望が多い。医療機関との連携が取りやすく、状態や症状に合わせた受診や検査及び治療が円滑にしやすい。嘱託医を理事長が兼務し、医療フォローに重点を置いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢者ほほえみセンターご利用の方との継続的交流を図り、合同で行事を行っている。また、法人を挙げて地区社会福祉協議会や地域の見守り組織「佐久山おもしろ隊」の方々との連携・協働を、積極的にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的且つ突発事受診や往診は、施設独自の連絡様式を使い円滑である。また、嘱託医による定期回診も継続している。他医療機関での受診・検査が必要なときの対応として、ご家族の希望に応じて通院・付き添い等のサービスも行っている。	施設長の連れ合いが協力医でかかりつけ医であることもあり全利用者が2週間に一度の訪問診療を受けている。定期往診など適切に行っている。利用者一人づつに「緊急時医療情報(薬・既往歴など)」が整備されており、突発時などでの対応準備ができており、本人、家族の安心安全に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護職とかかりつけ医の看護職が密に連絡を取り合い、健康管理にも注意を払っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人理事の経営する医院と理事長兼嘱託医の協力の下、病院関係者との連携・関係づくり円滑である。また、ご家族とも連絡を取り合いながら利用者・ご家族の安心へ繋がるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を見ながら医師へ相談し、ご家族とも適宜話し合ったりしている。今年度は、ホーム開所以来初めてののお看取り介護をご家族・職員一丸となって経験した。また、代表者、管理者、職員は終末期医療・介護に関する研修等に積極的に参加している。	利用者の急激な重度化に伴い、家族の思いにも寄り添い、当事業所としては初めての終末期の看取り介護を、家族と職員全員が一丸となって対応した。髪を染め、死に化粧、柔和な表情(入歯、頬ふくらましなど)、着物への着替えなどを行なった。家族の感謝も得られた。	今回の経験を通して、利用者の終末期に対し利用者家族の全面的な信頼と職員(ヒアリング結果)の賛同も有り、今後事業所で利用者、家族に寄り添った終末期の対応を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置用の薬を備えており、AEDの設置もしている。理事長兼嘱託医の指示の下、初期対応について適宜話し合っている。また、緊急時の対応に関する研修へも継続参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会長はじめ、近所の方々や駐在所、公民館、地元消防団との交流を図り緊急災害時の協力依頼をしている。また、年2回の消防避難訓練時には、ホーム内外の安全点検に努めている。この度の法改正により、火災報知器が自動で所轄消防署へ非常通報されるよう非常通報装置を設置した。	3月(夜間想定)12月に避難訓練を実施しており、夜間の課題としてホーム内伝達訓練の必要性などを感じている。暖房・煮炊き用石油ストーブ、レトルト食品等を約3日分備蓄している。緊急災害時の高齢者避難場所として市と協定している。非常通報装置として10名の職員に自動で連絡するようになっている。	夜間での火災などの災害に対し利用者全員を外に避難させる際の課題を明確にし、繰り返しの練習で、問題点の把握及びその対応を検討し、全職員が臨機応変に対応できるようになることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する資料は、ファイルに綴り書庫に保管している。また、日常生活においては個々の慣れ親しんだやり方で個別に対応できるよう努めている。	呼称は姓や名前にさん付けで行っているが、反応によってはちゃん付けで行うこともある。話すときは目線を合わせることでし、車椅子の人に対しては腰を下げるとこ、トイレ・風呂はオープンにしないなど注意している。来訪者によっては訪問時に居室で話してもらうようにするなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時には、お好きな飲み物を選んでいただき、日々の余暇活動や入浴時間等・・・個々の表現の仕方でも自己決定できるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、その日・その時のご気分に合わせて柔軟な対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望があれば、季節の変わり目に洋品等買い物に出かけたり、地元美容店の出張の折には、顔なじみのご安心もあってか好みのスタイルを伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの聞き取りや、季節の郷土料理また月1回のバイキング昼食も継続している。庭で、流しそうめんやバーベキュー鮎狩りを楽しんだりできた。嚥下、咀嚼が困難な利用者が増え、医師の指示の下ミキサー食対応しているが、食材によって可能な限り彩りや目で見て楽しめるよう心がけている。	利用者にとっては食事が一番の楽しみで、食欲がある人もおり結構なボリュームである。台所に入ってきた参加者はいないが、テーブルで野菜の皮むきやインゲンの筋取りなどを手伝っている。職員は介助をしながら同じものを一緒に食べている。毎月のバーベキューや誕生月の個別メニューなど楽しみを演出し、外食も適宜行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医や嘱託医によるアドバイス受け、都度の指示の下、支援にあたっている。また、栄養士の資格を持つ職員により適宜指導を受け、献立係や調理師を中心にバランスのとれた食事や補食の提供に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内衛生に努めている。また、必要時には歯科受診などで口腔内衛生指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自発的に行かれる方、定時での誘導やおむつ交換等、個々に応じた支援を行っている。	おむつの人が多くなってきた。日中は時間を基本的にトイレ誘導しているが、様子を見ながらも行っている。夜間は目を覚ました人だけに声掛けをしているが、声掛けせず4時間は寝てもらおうように配慮している。尿意便意を感じない人には時間で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、排泄のサイクルの把握に努めている。必要に応じて、かかりつけ医や嘱託医による指示を受けている。日々の日課の中に体操の時間を入れ、運動不足の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室は、毎日開放している。治療中の病気やその日の体調により、特別かかりつけ医や嘱託医の指示のある方以外は、都度の声かけでご希望の時間帯の確認をしながら対応している。	週3回の入浴支援を行っており、浴室は通常の浴槽一式のみで介助に手間がかかる利用者には二人係で対応している。入浴前に全員バイタルチェックを行い体調に問題がなく希望する人には毎日でも入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状態を、申し送りなどで把握。その様子で食後の時間帯の観察をしながら食休みや午睡に気配りができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬一覧ファイルを見て、個々の服薬状況の把握に努めている。また、かかりつけ医や嘱託医、看護師の指示の下、状態の変化や臨検した内容を記録し体調の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のモップがけ等、家事参加支援をしたり外出の際には、行き先の配慮をしている。また季節の行事を皆で手作りしたりして楽しめるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出の他、散歩また個別外出の計画を立て実施している。ご家族の協力も頂き、行きたい場所へ外出できるよう支援している。	行事委員会が計画を立て、月2回の外出を実施している。春は花見などで2通りくらいにコースを考えて、利用者に応じたコースを選んでいる。その他に利用者の希望に応じて個別の外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際には、個々のお小遣いを持ち、職員が付き添ってお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時に自由に電話ができるようにし、ご家族や親類の方からの電話にも楽しく会話ができるよう支援している。手紙や年賀状などのやりとり等もできるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作った作品や飾り物を飾ったり、リビングには音楽を流したりして心地よい空間作りを心がけている。	居間兼食堂は開放感あふれた吹き抜け天井で自然光の取入れを優先した造りになっている。同じフロアーに上り框で長い掘りごたつが設けられた和室があり、大勢で寛げる場所にもなっている。室内には利用者の作った貼り絵などが飾られ、生活感を演出している。午後は季節の音楽を流すなどBGMでリラックス感も出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やリビングでおしゃべりをしたり、個々の居室でゆったりくつろいだり自由にできる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員を中心に居心地よい居室作りに関わり、ご家族に相談しながら工夫している。	掃き出し付きの洋間になっており、全てが持ち込みで自分の好みの家具などを持ち込み自分なりの空間を演出している。乱雑にならないよう整理整頓は職員が行い、手伝う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人が安全な生活を送れるよう、個々の分かることを活かし自立が損なわれないよう努力している。		